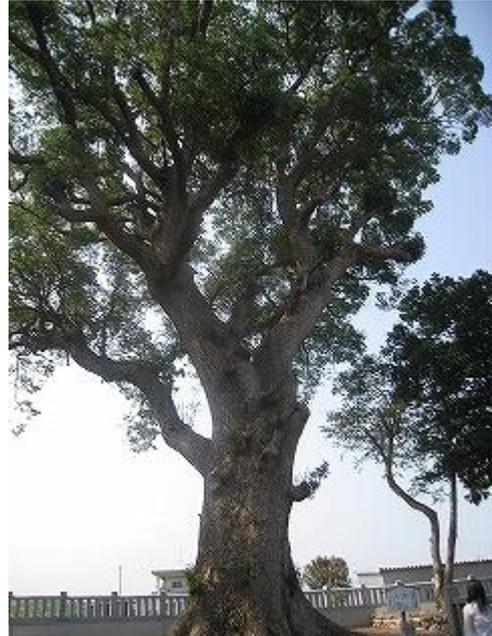


野田八幡大神社



祭神は、帯仲津彦命（たらしなかつひこのみこと 14代仲哀天皇）、息長帯姫命（おきながたらしひめのみこと 神功天皇（第14代皇后））、誉田別命（ほむだわけのみこと 15代応神天皇）。

平安時代、醍醐天皇（897）のころに、山城国石清水八幡宮より御三柱のかみを勧請し、藪床八幡宮と称していた。その後、後三条天皇（1068）のころ、河野親経公の崇敬するところとなり社号を正八幡宮と改称した。古来より野田村・長田村・豊田村の氏神である。

戦国時代となり渋柿城主薦田義清の崇敬を受け、社殿の造営等あった。その後、寛文年間（1661～73）には、一柳氏が八日市に館を設け当社を祈願所とされた。その後は、西条領に属し、御代参などがあった。明治時代になり、社号を八幡大神社と改め今日に至っている。

八幡大神社の本殿西にあるクスノキは、推定樹齢300年以上とされ、樹高30m、目通り8.2m、根回り29mで、市内では関川の大川のクスノキに次ぐ大きなものである。八幡大神社のクスノキとして親しまれ、四国中央市の天然記念物に指定されている。